

令和4年度 学校評価書（最終）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（中間）	評価	自己評価（最終）	評価	総合評価	関係分掌
重点目標									
1 どのように学ぶか									
(1) CoCoLo（こころ）の鍛錬のために、地域とのつながりを意識した社会貢献活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度はコロナ禍のため、ボランティアの活動は2学期からとなり、校内での活動を含め1年間で、のべ8回137名と例年より少ない活動であった。 今年度は当初よりボランティアの要請もきており、コロナ禍である状況は変わらないが、感染対策を十分した上で進めていける状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートにおいて、「主体的に地域貢献活動に参加している」「地域と協力して取り組んでいる」の生徒の肯定的割合が75%を超えている。 年度末にルーブリック評価の「地域文化理解力」の3学年のレベル平均値が3以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア募集のチラシは全校生徒に配布し、クラスには掲示用に大きなものを準備し、周知徹底をはかる。 9月中旬にボランティア参加数の集計を行い、状況に応じて対策を練る。 各ボランティア活動でGROW UPシートを活用し、社会貢献活動への意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア募集のチラシは毎回全校生徒に配布し、周知ははかされている。 10月末時点のボランティア参加数は、14ボランティアに参加し、のべ195名の参加であった。ボランティアによるが、全校生徒の1割が参加したボランティアもあり、本校生徒のボランティアに対する意識は高い。 あるボランティアでの3年生の振り返りで、「地域文化理解力」がレベル1から2に上昇し、「ボランティアでたくさんの方が集まったときに、皆さんの地域に貢献したいという気持ちが変わり、自分も同じ気持ちになった。」という記述があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア募集のチラシは毎回全校生徒に配布し、周知ははかれている。 12月末時点のボランティア参加数は、17ボランティアに参加し、のべ233名の参加であった。 ボランティアによるが、全校生徒の1割が参加したボランティアもあり、本校生徒のボランティアに対する意識は高い。 学校自己評価アンケートにおいて、「主体的に地域貢献活動に参加している」の生徒の肯定的割合が79%、「地域と協力して取り組んでいる」の生徒の肯定的割合が76%であった。 	A		地域連携室
	<ul style="list-style-type: none"> なかなか教育資源を生かした機会はない。どのような教育資源があるかも把握していない状態である。 昨年度は、玉野市西行賞実行委員会主催の西行賞に短歌を作った応募し、各学年一人特別賞をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域（玉野市）にある、国語で活用させてもらえるような教育資源にどのようなものがあるか、情報を集める。 1年生は、今年、西行賞に参加するのが90%以上になる。 2年生は、西行賞を含む地域の賞などに向けて創作させる。 3年生は、西行賞の創作を通して地域への愛着を深め、90%以上が応募することとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市教委などに問い合わせ、どのようなものがあるか、また学校としてお願いするに相応しいものを選び出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年も応募した学年は希望者であるが、各学年西行賞に取り組み中である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年も応募した学年もあったため全員ではないが、各学年応募した。 1年生は、9割の生徒には作らせたが、相応しくないと判断される作品もあって8割の応募、3年生は99%、2年生は昨年も応募していたので、他の物と合わせ9割以上の応募と、全体としては大体達成できた。 	B		国語科
	<ul style="list-style-type: none"> 公民科では玉野市選挙管理委員会と連携した主権者教育を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 主権者教育について、玉野市選挙管理委員会事務局と積極的に連携を取り主権者教育の充実を図る。 3年生現代社会の授業評価アンケートにおいて「自分に選挙権を持つ年齢になったら、積極的に選挙に行こうと考える」に肯定的な評価をする生徒が70%を超える、1年生公共の授業評価アンケート同様の項目において60%を超えるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主権者人権委員会、玉野市選挙管理委員会事務局と連携した授業計画を1年・3年ともに具体的に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 主権者人権委員会・玉野市選挙管理委員会と連携し12月特別時間割期間に1/2年生は主権者クイズ、3年生は模擬投票を計画している。共に3学期の授業内容と連携し学びを深めていけたらと考えている。（これからなので評価はまだできないためC) 	C	<ul style="list-style-type: none"> 主権者人権委員会、玉野市選挙管理委員会との連携による主権者教育はこの数年間継続して行うことができている。本年度は3年生模擬投票、1・2年生は主権者講演会とクイズを実施した。今後も生徒がより主体的に学べる主権者教育を模索していきたい。3年生アンケート評価80%以上（選挙への関心が持てたか、選挙に行こうと思うか） 	B		歴史公民科
(2) CoCoLo（こころ）の鍛錬のために、地域の教育資源を活かした授業づくりや実習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> CoCoLoの中で数学が地域の教育資源を活かした授業作りや実習を行うことで、Loを目指す過程でCoCoも目指すことになる。具体的にはどのような教育資源を使うかを模索している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1つ以上の地域の教育資源を活かした授業作りや実習を行い、アンケートをとり授業内容に関して肯定的意見が60%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な授業実践ができるように計画を進めていく。実践内容を数学科内で共有し次回に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざした題材は1学期で行った範囲で取り上げるのは、なかなか困難であった。2学期から3学期にかけて、データの分析の分野で玉野市のデータを使って学習することができるとも知れない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> データの分析の項目で、玉野市の各地域の人口動向を使って、平均、分散、標準偏差を計算してみる。また、各地域の平成4年の人口と10年前の人口を比較して、人口の減少率は人口の大小と関連の有無を相関係数を計算してみることで検証する。いずれもコンピュータや計算機を使用する。 地域の特性を活かした教材の発掘はなかなか大変である。 	B		数学科
	<ul style="list-style-type: none"> 玉野地区周辺は、温暖な気候や瀬戸内海に面していることによる立地条件の良さから昔から塩作りなどの産業が発展していたことの認識に乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 塩作りの里山田およびナイカイ塩業（株）について学ぶことにより、塩の種類と働きを知る。三菱マテリアル直島精錬所を通して、金属が日常生活に深く関わっていることを認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> イオン結晶の代表例として塩を取り上げ、昔の塩田法や現在のイオン交換樹脂法による塩作り、さらに伯方の塩の魅力について理解させる。直島精錬所のDVDを視聴させた上で各種金属の特徴について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「野崎家の塩作り」を題材として授業展開するために、児島にある「野崎家塩業歴史館」で資料収集および山田地域の塩田跡地の写真撮影をおこないスライドにしてまとめた。身近な地域に関することであるため真剣に学習ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「化学基礎」の題材として、「塩」について取り組んだが、玉野地区には「金属の精錬所」もある。さらには「シーンスの町児島地区」もあるので「化学と人間生活」の題材としても範囲を広げていきたい。 	B		理科
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を生かす機会がない。 教科の特性として在学中に関わりが持たにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 在学中に地域との関わりは持ちにくい、将来を見据えてスポーツを捉え、卒業後に地域スポーツに関わるように、技能、ゲーム等の進行等を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種目の特性を知り、必要な活動を身につかせ、ゲーム等が自らのグループでできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種目の特性、特徴の理解を図り、各自が進んで授業スポーツに取り組んでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種目率先して多くの生徒が活動できた。特にリーダーとなる生徒も増え、生徒同士での取り組みがうまくなった。 	B		保健科 体育科
	<ul style="list-style-type: none"> 海外からの来訪者が宇野駅や宇野港周辺を利用されるので校外に出て活動した年もあったが、近年はコロナ禍でなかなか外に出る機会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使ってコミュニケーションを取ろうとする態度が身についている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内であいさつや道案内、あいづちなどの日常生活でよく使う表現を学習させる。 学んだ表現を用いた言語活動に取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡潔で使いやすい表現は実際に使っている生徒も見られるので、繰り返し使用することでさらに定着を図りたい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 簡潔で使いやすい表現やジェスチャーの違いなどを学習させることで、学習した表現を実際に使おうとしている姿が見られた。 	B		英語科
	<ul style="list-style-type: none"> 岡山市内から通学している生徒が多く、玉野市の歴史やグルメになどあまり知らない生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 玉野市のグルメについて興味関心をもち、自分で調べて調理実習で作ってみたいという意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 玉野市のグルメの温玉めしや野菜具たくさんスープや紫芋を使ったお菓子など、調理実習に取り入れて玉野市の地域の特産物を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に計画していた通りに、地域の特産に根ざした温玉飯、実習をすることができた。11月には紫芋が収穫の時期を迎えるので紫芋のカップケーキの実習を計画している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習では温玉飯、紫芋を使用したカップケーキなどをつくり、地域の特産品からその地域の特徴を理解するような授業展開を行った。 	A		家庭科
	<ul style="list-style-type: none"> 本校機械科では授業実習において地域で学ぶ工場があるのでその環境を生かした授業実習の実践を行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までに実践している授業実習において地域文化理解力のレベル3以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業と結びつけた授業展開や実習を行っていく。 三井E&S、宮原製作所等と連携し力を育んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規の協力企業で株式会社精電社での実習を実施し地域の産業と結びつけた授業展開を行えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社精電社と書面を交わして正式に新規協力企業として連携を次年度以降も行うことになった。連絡協議会も実施し教育効果の高い授業作りを行えた。 	A		工業科
	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス情報科では、3年生の課題研究において、地域の企業の方から学び、協力して取り組む活動を多く行っている。今年度の1年生より新教育課程となり、1年生から総合的な探究の時間に地域の方から学ぶ機会ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「(T-7) 地域の人材を活かした授業づくりを行っている」の肯定的回答が80%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究で引き続き地域の企業や人材を活用し連携していく。 1年生では総合的な探究の時間で地域の方から学んだことを、授業の中でも取り上げるなど関連させていく。 3年の総合実践ではキッズビジネススタウンたまのについての取り組みなどをとおして地域と連携をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究では以下のような取り組みが進んでいる。「現場実習」地域企業での研修、地域企業とマルシェを企画「商品開発」なかや宗義とスイーツ開発、NHKが「アイス」と弁当開発「デザイ制作」渋川マリ水産館のPRイベントの協力「生徒商研」温玉めし、月日とお弁当開発など。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究「現場実習」はマルシェ企画から実施、「生徒商研」はお弁当の企画・調理、「商品開発」はお弁当の開発や食育、「デザイ制作」はイベントにおいて、地域の企業や人と連携した。その他の科目では可能な単元で地域の題材を取り入れた。学校自己評価アンケートT-6の肯定的回答は91%であった。 	A		商業科

1 どのように学ぶか									
(3) CoCoLo (こころ) の 鍛錬のために、 GROWUPシート活用し た教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> GROW UPシートの活用については理解が進んでいるが、活用する場面がなかなか無い。生徒が教育課程内の学習活動をGROW UPシートにもとづいて、自分で説明や振り返りができるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> GROW UPシートを活用することで、学校自己評価アンケートの生徒質問項目「自分の成長を振り返るために、GROW UPシートが活用できている」の肯定的回答が60%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールなど生徒が活躍する場面において、GROW UPシートを活用することにより、生徒が自分自身で趣意説明や振り返りができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールに協力してくれた生徒は、体験授業では、遠慮や敬遠する場面も見られたが、中学生の質問に一生懸命答えることが慣れてくるようになり、だんだんと積極的に関わりが深まってきた。懇談会では、自分の体験を踏まえながら中学校の時の不安や取り組みを紹介し中学生に丁寧に接することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 第1回オープンスクールに参加した生徒は、中学生に説明したり、質問を受けたり一生懸命関わることで自己の成長につながっている。 第2回オープンスクールは事故の主体的な関わりが理解できず大きな成長にはつながっていない。 	B	総務課	
	<ul style="list-style-type: none"> GROW UPシートは、昨年度もコロナ禍で学校行事がなくなり、また活用に向けてのPRもなかったため、授業以外ではあまり活用されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 育成したい資質能力を図るためにGROW UPシートを活用した教員の割合が60%以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業でGROW UPシートを活用できるようにシートを準備する。 集会や教室掲示などで「学習のスタンダード」ができるよう促す。 生徒にアンケートを実施し、その結果をもとに、対策を考え喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議や職員朝礼でGROW UPシートの活用を促している。 1学期は、全体にシートを配ることはできなかったが、2学期以降には全体にシートを配ったり、回収したりすることができた。HR担任や教科担当者は生徒の授業や行事への取り組みや、成長を確認できていた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議や職員朝礼でGROW UPシートの活用を促すことにより、利用した教員の割合(肯定的意見)は85.7%となった。また、「学習のスタンダード」は教室掲示などで促すことができたためどの項目も肯定的意見が75%を超えていた。 	B		教務課
	<ul style="list-style-type: none"> 交通自治委員会では、交通安全啓発ポスターの作成、二重ロックの点検などを行っており、交通事故や自転車の盗難件数の減少など、一定の成果をあげている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協力して委員会活動を行い、人間関係形成力のレベル3以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの活動を継続させながら、より主体的な活動になるように変えていく。 交通安全委員会の二重ロック点検 交通安全啓発ポスター作成 自転車置き場の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 交通自治委員会では、継続して二重ロックの点検や自転車置き場の環境整備を行っている。また、委員で協力して、交通安全啓発ポスターを現在、作成中である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 交通自治委員会のアンケートでは、人間関係形成力の評価の平均が3.3であった。自転車点検やポスターの作成、講演会の機会などを協力して行い、主体的に活動する場面が増えた結果である。 	B		生徒指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路計画をもとに進路の具体的な活動を行ってきた。しかし、生徒が自らの資質・能力を意識した進路希望ではなく、興味関心のある進路希望に絞り込む傾向がある。また、進路希望を決定するまでのタイミングが3年生にずれ込む状況もみられる。一人一人の生徒が様々な学校活動に積極的に参加し、自らの資質・能力向上を意識した進路希望を決定し、進路の具体的な準備を早めることが求められる現状がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生が、1年間の資質・能力の現状を把握し、3学期にある程度の進路の方向性を見出し、さらに2年生の2学期開始までに自らの現状から適性をもって進路希望の決定ができる。そして、2学期以降より具体的な進路活動や学習を進めることができる。 保護者対象の進路説明会を1年生、2年生においても実施し、最新の進路情報や本校の現状を伝える機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路計画をすることで、一定期間ごとの具体的な目標を明確にし、定期考査や特別時間割期間に進路LHRの時間を確保し、進路活動や進路学習を行う。 進路についての時間を確保することで、計画的な進路の取り組みを行い、生徒の進路希望決定を2年生の2学期までに明確にするために、1年生や2年生においても保護者対象の進路説明会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいて6月に進路説明会動画配信を行い、進路ガイダンスを1年から3年生まで学年の状況に応じた進路行事を実施した。 1年生について2学期において「進路講演会」と校外進路行事を予定している。 2年生においても「インターンシップ」実施、実施後のまとめを行い、校内発表会に向け準備に入っており、さらに1年生よりも進路希望の選択肢を広げ、校外進路行事を実施する予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者対象の進路説明会を動画配信により実施し、3年目となった。対面での実施の可能性も模索するべきが考慮している。 校外での進路学習を1、2年生に実施した。特に1年生の企業訪問については、礼儀やマナー、進路に対する心構えなど事前の指導を行い、生徒に自覚させた上で実施することが重要であることを再確認した。 2年生の企業訪問において新たに座談会を実施した。 	B		進路指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から私物のゴミの持ち帰りが始まり、ゴミの持ち帰りが徹底できるかどうか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> 私物のゴミの持ち帰りができるようになり、ゴミを放置しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、美化委員の協力を得ながら全校生徒に呼びかけ持ち帰りの啓発をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの持ち帰りはできつつあるが、校舎内外の放置ゴミが目立つようになった。委員会を動かして放置ゴミが出ない対策をしたい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 4月初旬は校内に外部で購入した弁当ゴミや私物のプリントが放置ゴミとして散乱するのではないかと心配していたが私物のゴミは持ち帰れるようになってきている。来年度も委員会活動を利用して私物ゴミの持ち帰りを徹底したい。 	B		保健厚生課
	<ul style="list-style-type: none"> 機械科の多くの生徒が、自身の教育活動とGROW UPシートをタイアップさせて考えることができている。企業実習でのGROW UPシートの活用が未実施である。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業実習においてGROW UPシートを用いて振り返りを実践していき人間関係形成力のレベル3をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業実習後の振り返りにおいてGROW UPシートの活用を実践していきCoCoLoの鍛錬を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 三井E&Sでの企業内実習や工場見学等でGROW UPシートを活用し生徒の自己評価で人間関係形成力が平均レベル3を超えていた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 企業内実習後の事後指導においてGROW UPシートを用いて振り返りを行い、人間関係形成力の平均レベル3を達成することができた。 	B		工業科
<ul style="list-style-type: none"> ビジネス情報科では、3年生の課題研究において一部の生徒はGROW UPシートの活用を行っていたが、まだ全体としては十分には活用ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究において、GROW UPシートを活用して取り組み、年度末において「人間関係形成力」のレベルにおいて平均値が3.2を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究では、全ての講座においてGROW UPシートを活用する。 1年生や2年生の科目においても、可能な単元でGROW UPシートを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究では、各講座において、それぞれの課題グループごとに、活動に沿ったGROW UPシートを活用して現在活動中である。今後その成果について考察し発表に盛り込んでいく。 その他の科目については、今後可能な単元において活用していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の各講座の平均値では「人間関係形成力」は3.7となった。地域企業や外部の方と関わった講座では3.9とより高い結果が出ている。取組内容により今年度は活用ができなかった講座もあり、GROW UPシートは、生徒自身が取り組む課題に合わせて、どの力を伸ばすのかがしっかりとイメージして活用すると、より効果的だと思う。 	B	商業科		
(4) キャリアデザインのために、新規企画による「Newキッズビジネスタウンたまの」づくり(街(タウン)創造プログラム実施に向けて)を行う。	<ul style="list-style-type: none"> キッズビジネスタウンで新たな取組を実践できる機材が昨年度末に導入されている。課題研究や授業で実践している内容の発展で今年度のキッズを行う予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究や授業実習でキッズの準備をすすめていき、ものづくりを通して創造力のレベル3まで達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究でキッズのノベルティ製作を行う。 5インチゲージ(動機が5インチの乗用の鉄道模型)の製作を行い、キッズで子ども達が利用できるようにする。 ラジコン、模型もの作りでキッズで実施できる内容の準備を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> キッズビジネスタウンで、電車、ラジコン、ドローン、ものづくり工房の準備を進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> キッズビジネスタウンでの新ブースでラジコン・ドローン・5インチゲージ(電車)、ものづくり工房でのネックレスワークショップの展開ができた。 	B	工業科	
	<ul style="list-style-type: none"> キッズビジネスタウンたまのが2年間中止となったことで、生徒は全学年キッズを知らない状況であり、教員もキッズについて知らない人が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実践の授業において、GROW UPシートを活用し、「創造力」および「人間関係形成力」のレベルの平均値が3.2を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実践で、今までのキッズビジネスタウンたまのについて知り、担当ブースごとに、生徒が主体となって新たに具体的な取り組みを考え、実施する。 実施後に振り返りを行い、次年度への改善や新たな提案を作成し引き継ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実践の授業の中で現在準備中である。過去の内容を資料から参考しつつ、今までの内容にとらわれず生徒が新たな発想で企画準備している。特に、今年度は食品関係のブースのかわりに、新設された3つのブースでは生徒があらたな企画をして進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合実践で企画する際、どのブースにおいても新たな内容も含め取り組んだ。新ブースは生徒の案から「IT企業」「図書館」「自衛隊」が取り組んだ。GROW UPシートの「人間関係形成力」はレベル平均値3.6と4に近いが「創造力」が3.1とやや伸び悩んだ。 	B	商業科	
(5) キャリアデザインのために、キャリアパスポートを意識したポートフォリオの活用を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路意識や進路に関わる情報を生徒自身が記録をこまめにできていない状況がみられ、生徒自身の自主的な活用は不十分な状況である。 キャリアパスポートの自主的な活用について不十分な面が見られる。 キャリアパスポートの活用について、進路実現に向けた計画的な活動との繋がりを見える化する必要性が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを今年度から積極的に活用し、特に1年生と2年生は様々な活動を10個以上記録できている。 1年生と2年生の進路LHRの時間を各学期各2回以上は確保し、進路ガイダンスや生徒自らの活動の記録をキャリアパスポートにまとめさせる時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートについての生徒向けガイダンスを実施する。 キャリアパスポートを生徒の進路活動や進路学習のPDCA、面談資料としても活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に持たせている未来手帳をキャリアパスポートとして活用しているのと同じように持たせることで、生徒の日常でのスケジュール管理での活用に進路意識を持たせながら、自らの様々な活動による実績や成果も記録させることを現1年生から進めている。各自の管理と活用を進めるうえで、未来手帳は、学校において様々な場面で活用されるメリットがある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 未来手帳の活用が、進路活動にどれだけ役割を果たしているのか正確に判断することは難しい。しかし、生徒一人一人の活動の記録が、PDCAサイクルに活用されるためには学校活動と進路活動の関連性や学校として取り組む進路について示した「進路指導の手引き」が進路の参考書として必要性があると考えている。 	C	進路指導課	

1 どのように学ぶか								
(6) 学びに向かう姿勢を養うために、Googleworkspaceの活用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを持っている学年が1学年だけだったので、持っていない学年は、家族の体調不良での欠席の場合にリモート授業をするくらいである。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを持っている学年が2学年に増えたので、その使用を増やして、生徒の授業理解や、コミュニケーションツールとして生かしていきたい。具体的には、1、2年生は毎月2、3回の使用を目標とする。3年生は、生徒は持っていないが、月1回を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ時間に、教科書、ノート、副教材など、使用するものを次々変えると、それについてこれない生徒が出てくると思うので、1時間に使うものはできるだけ、精選して少なくするようにするか、または毎回同じように使い、本人に習慣化するよう注意をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体として、Chromebookの活用ができた。意欲喚起の目的での使用や、審査や問題集の解答配布、補助教材としての提示など行った。シャムボードも使ってみたが大筋ではよかったが、教員悪戯する生徒への具体的なよい手立てを知りたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間通じて、Chromebookを持つ学年では、様々な場面で活用することができた。そうでない学年も、必要な場面に応じて、活用できた。 	B	国語科
	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを持つ学年については、授業実践や小テスト、レポート作成、提出、発表原稿作成、発表等積極的に使用することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生公共・2年生世界史について、昨年度同様、授業課題、小テスト、話し合い、発表のツールとして積極的に活用する。授業評価アンケートに項目を作成Chromebook使用の授業内容に関して肯定的意見が60%以上になる 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを活用しての小テスト、課題配信、レポート作成等を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共・世界史Aともに小テスト・課題配信・振り返りの活用等毎時間活用している。世界史Aではレポートの作成も課している。ただ、手書きの良さを逆に生徒と共に感じたこともあったり、授業規律の保ち方等課題も見えてきた。今後も積極的に活用しながら、前半で見えてきた課題については改善も検討していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 世界史A(2年)・公共(1年)共に毎時間、Chromebookを使用している。単元ごとのまとまった振り返りシートの活用は今年度の一番の収穫である。学期ごとの授業アンケートにより、授業時間におけるChromebookの具体的な活用方法の希望や使ってみての生徒の学びにくさを知ることができた。今後は生徒の主体的な学習や思考する活動、協働学習により効果的に成果を出せる活用方法を検討していきたい。授業評価アンケートは年度末に実施予定である。 	B	地歴公民科
	<ul style="list-style-type: none"> 黒板を使っの一言授業が主である。データの分析などの項目では教材提示装置を使うなどして、事業の効率化を図っている。そのほかにも、フラッシュ教材を使うなどして生徒の理解の助けの一助になるよう工夫している。Googleworkspaceの活用はほとんどしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1つ以上の地域のGoogleworkspaceを活用した授業作りや実習を行い、アンケートをとり授業内容に関して肯定的意見が60%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な授業実践ができるように計画を進めていく。実践内容を数学科内で共有し次回に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> やむを得ず欠席した生徒(いわゆる体調不良ではない)に対しては、今まで通りGoogleworkspaceを活用して授業の補助をしている。ただ、その範囲を超えた新しい取り組みまでには至っていない。引き続き検討していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価で示したように、出席停止になった生徒に対して、Googleworkspaceを活用して授業風景を配信している。データの分析の分野では、積極的にエクセルの関数を使って、分散や、相関係数、箱ひげ図などを書かすようにしているが、他に活用できる分野もあるが、活用させるための準備が大変で進めることができない。 	B	数学科
	<ul style="list-style-type: none"> 教科書内容及びNHK高校講座を利用する場合にChromebookを利用してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容に関するタイムリーなものを検索して探しだし、各科目毎に題材として一覧表にまとめる。理科室には設備がないので、教材提示装置を用いてテレビ画面やスクリーンに拡大して指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出てくる内容に沿いながら、補足や日常生活に関わるものを紹介して生徒の関心や意欲を高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> NHK高校講座の利用には、無重力による作用反作用など実験や体験ができないものや興味関心ある部分を選び出した。 調べ学習にChromebookを利用し、いろいろな角度から情報を手に入れることができ知識を広げることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業を展開していく上で、先を見越した事前学習の手立てとしてChromebookを利用した。またタイムリーな内容として「カーボンニュートラル」を取り上げて深い学びを実践するために使用した。 	B	理科
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への連絡、課題、小テストでClassroomを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> タイムリーに発信し、内容確認、提出期限厳守など生徒がClassroomを活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育ノートを活用する。 Classroomを使って生徒への連絡や課題を配信する。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookの活用、Classroomでの配信等活用できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookの活用、Classroomでの配信等活用できた。 	B	保健体育
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒へ連絡したり、欠席した生徒に授業のポイントをまとめた資料を配信したりする際にClassroomを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> スライドの画像や動画・音声などの情報から、英語や海外の文化に興味を持つようになる。 Classroomの連絡をきちんと確認し、期限内に課題を提出できている。 	<ul style="list-style-type: none"> Lessonの内容理解に役立つ背景知識などを提示する。 Classroomを使って生徒への連絡や課題を配信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材への理解を深める視聴覚教材(動画やスライドなど)を効果的に用いることができた。 Classroomを使って連絡や課題配信を行うことで、欠席者に対する指示も徹底することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各Lessonで題材への理解や海外の文化への興味を深める視聴覚教材を効果的に用いることができた。 Classroomを使っの課題配信は、口頭での連絡も合わせて行うことで90%以上の提出率となった。 	B	英語科
	<ul style="list-style-type: none"> 8割の生徒は教科書などの忘れ物がなく、授業を受けることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記入が毎時間丁寧に行われている。忘れ物がなく授業を受けることができている。グループワークを取り入れて居眠りする生徒が減っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を明確にノートに記入させて、終業時5分前にはまとめの時間をとり、知識理解を深める。Chromebookを使い、ビジュアル的に体験的にわかりやすく伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習等、Chromebookを使用して動画視聴をして具体的にイメージをさせることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 動画やパワーポイントなどの資料をChromebookで提示し、授業内容を具体的にわかりやすく伝えた。さらに生徒が寝ないような授業作りを考えたい。 	B	家庭科
	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを用いた授業実践や検定指導を実施することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度購入したスマートグラスとWi-Fiルーターを用いて三井実習、宮原実習で授業展開をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fiルーターを用いて学校外でもオンラインに接続しChromebookやスマートグラスを用いて実習中でもGoogleworkspaceを活用した実践を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fiルーターを用いて校外でのChromebookの使用や授業での活用を行うことができています。 	B	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fiルーターを用いて三井E&S構内で授業やSHRでChromebookの使用や活用を効果的に行うことができた。 	B	工業科
	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は、小テストや課題の配信や反転学習など、いくつかの科目や担当者において活用されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目においてGoogleworkspaceの活用について実践し、活用事例や方法を商業科教員間で共有し、より一層の活用推進をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において、科目主任を中心にGoogleworkspaceを活用する場面や単元を話し合い、実践する。 年度末に、各科目ごとに実践事例を入力してもらい、商業科会議で実践事例を共有し、次年度に向けてより効果的な取り組みをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において必要に応じて活用している。ビジネスコミュニケーションでは、対面計画の課題をGoogleworkspaceを活用して提出させ、教員が確認し不十分な生徒にはアドバイスを加えて返却することで個に応じた指導ができた。年度末に科目ごとに集約し、次年度へ引き継げるよう残していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> Googleworkspaceの活用方法として、課題の提出や小テストが多かったが、ドライブを活用したデータ活用や、JamBoardを使っのグループワーク、本時の目標や事前準備の提示、振り返りなど、授業内容に応じて工夫されている。今後、商業科内でも共有し、また他教科での活用も参考にしたい。 	B	商業科

1 どのように学ぶか									
(7)学びに向かう姿勢を養うために、未来手帳の活用(自己成長のマネジメント)を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度学校生活アンケート(12月)において、「日々の予定を毎日見直している」の否定的回答(あまりできていない、まったくできていない)が19%、「予定を意識して行動している」の否定的回答(あまりできていない、まったくできていない)が9%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の生徒が、未来手帳の積極的な活用ができていない(「日々の予定を毎日見直している」の否定的回答が15%以下になる)。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、年度当初数日間かけて、行事予定を未来手帳へ書き写させる。また、SHR時の基本姿勢として、始まるまでに未来手帳を開けてメモをとる準備の習慣化を図る。 SHRや授業、集会などあらゆる場面で未来手帳の活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回学校生活アンケート(7月)において、「日々の予定を毎日見直している」の否定的回答が16.6%であった。学年別では1年生が18.5%、2年生が25.0%、3年生が7.3%で、3年生に比べて1・2年生の活用状況に課題が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 第2回学校生活アンケート(11月)において、「日々の予定を毎日見直している」の否定的回答が20.9%で、積極的に活用できている生徒が8割に達しなかった。学年別では1年生が23.7%、2年生が31.1%、3年生が7.5%であった。引き続き学校生活全般を通じて、根気強く指導をしていくことが必要である。 	B	生徒指導課	
	<ul style="list-style-type: none"> 入学からまだ間もなく、緊張感からかほぼ全員の生徒が未来手帳に予定や連絡事項などの記入を行っている様子が見られる。このまま継続して、まずは教員側で使わせる仕組み、使わせる習慣づくりを行うことが必要あると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート「(S-4)未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている」の項目で60%以上を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に未来手帳を持ち歩くように呼びかける。 SHRの際に手帳を準備しているか確認をし、連絡事項などを記入させる。 授業でも、連絡や課題について未来手帳に記入させ、自己管理する習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の日程など記入したり、講演会などではメモをとる姿が見られる。また、移動教室の授業や集会など持ち歩くように呼びかけている。しかし、一部の生徒は声かけが必要であり、自発的にメモをとったり記録したりするまでには至っていない。 Classroomなどで教師側から連絡を送る場面も増え、手帳を活用する機会が減っているとの声が教員団から上がっている。手帳にも記録し、いつでも確認できるように呼びかけを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートの結果(1年のみ抽出)、「未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている。」の項目にて71.8%の生徒が当てはまる解答した。日常的に時間割変更や課題の期限などの情報を記入するなど活用したり、講演会などでメモをしたり姿もよくみられた。 	B		1年団
	<ul style="list-style-type: none"> 未来手帳の活用については、個人差が大きい。活用できている、出来ていない生徒の具体的な把握も学年団として統一できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート「(S-4)未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている」を70%以上達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会、進路LHR、総合的な探求の時間(インターンシップ)、修学旅行等2年生全体として動く際には必ず未来手帳を記入させる機会を設ける。 各学期初めの朝学に「未来手帳の記入」を設け、目標・日程を書かせる時間を設ける。 2学期以降のCoCoLoの週間面談にて未来手帳の記入状況を各クラスで把握し、しっかり活用している生徒をお手本として(無記名で)評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 手帳を持って行くように声かけはしているが、記入状況までの個々の生徒の把握はできていない状況である。 各学期はじめの朝学に「未来手帳」に必要事項を記入させる時間を持つことができた。しかしその後の活用については個々の生徒に任せている状況である。 CoCoLo週間の各クラスの生徒への把握は学年としては取り組めていない。手帳を活用している生徒の活用方法を学年WBにて紹介する取り組みはできた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートの結果(2年)「未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている。」の項目にて74%の生徒が当てはまる解答した。 学期初めの朝学の時間を活用し、行事予定や学期の振り返りや目標の記録ができた。(具体的な活用の提示をすることはできた。) 次年度に向けて目的別に活用を検討したい。「自己の成長、自己管理、スケジュール管理、講演会等の自己研鑽の記録等」紙の手帳、Googleclassroomのカレンダー活用の併用も含めてより積極的に考えていきたい。 	B		2年団
	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に未来手帳を活用している生徒もいるが、指示内容のみ記入したり携帯していない生徒もいるなど、手帳の活用度は生徒間でも差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート「(S-4)未来手帳を活用し、自己の成長に役立っている」を80%以上達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から未来手帳を携帯させ、課題提出日、進路に関わる計画、予定等の記録をこまめに記入させスケジュール管理をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> スケジュール管理をしたり、考査時間割や提出物のメモを自主的に活用することが身につけている生徒が増えているように感じる。 今後も手帳の活用を促す声かけを継続して実施していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1月に実施した学年アンケートでは約9割の生徒が普段から未来手帳を活用していると回答している。しかし、学年集団としては約17%が未来手帳の活用は身につけていないと回答している。活用内容は人それぞれ異なるが、多くの生徒が手帳の活用も自己管理の一部として行えるようになった。 	A		3年団
2 実施するために何が必要か									
(1)連携・協働を支えるICT環境の整備・活用(Chromebook、デジタルサイネージ等)を行う。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でICT環境の整備が急速に進んでいる。デジタルサイネージ、Googleworkspace、アイデアハブ、WiFi環境が整備された。また、昨年度よりGIGAスクール構想により生徒一人一台端末の導入が始まり、1年生でChromebookの購入が始まった。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookの活用に関する先生方対象の研修、GIGAスクール推進委員会からのお知らせ等によって、Chromebookの活用が進んでいる。 デジタルサイネージを使った行事・集会の充実および利用者の育成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookの活用に関する先生方対象の研修を年2回実施する。 GIGAスクール推進委員会を原則週1回開催し、ICT環境の整備活用について協議を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> GIGAスクール推進委員会と教務課と連携して、6月、11月の公開授業週間に、Chromebookを活用した研究授業を依頼した。研究授業の計画と参観を通して、教材提示等のメリットを感じる先生が多かった。また、「準備の時間がかかる」や「ふざける生徒もいる」など、問題点も明らかになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業を通じて先生方のハードルも少し下がってきている。生徒の利用についても公開授業で見えてきた課題の解決に向けて来年度は取り組んでいきたい。 デジタルサイネージの利用は、毎日の連絡の他行事や集会で成果を上げている。利用できる先生も総務課、GIGAスクール推進委員を中心に増えてきているが、さらなる利用を検討していきたい。 	A	総務課	
(2)総合的な探究の時間委員会の活性化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 2年生は、従来どおりインターンシップを中心とした総合的な探究の時間を行う予定である。 1年生は、新教育課程となり新たに総合的な探究の時間を進めて行くこととなる。今年度の反省等を踏まえて来年度への引継を行う予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回以上委員会を開く。 「総合的な探究の時間に積極的に関わっている」の肯定的割合が70%を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議ごとに進捗状況を確認し、必要に応じて計画の修正を行う。 学年の多くの教員に関わってもらうために、各学年で分担できるように委員会から助言する。 各学年主任を中心に、各クラスの担任が運営できるような体制にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期には委員会を開けていないが、各学年とも情報共有はできている。各学年とも実施した記録を残しているため、来年度以降の改善引継に活用できるようにしたい。 9月中旬に行った中間評価では、「総合的な探究の時間に積極的に関わっている」の肯定的割合は88.3%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学期には委員会を開けていないが、各学年とも必要に応じて情報共有はできている。各学年とも実施した記録を残しているため、来年度以降の改善引継に活用できるようにしたい。 「総合的な探究の時間に積極的に関わっている」の教員の肯定的割合は91%と中間評価よりも上昇している。 	B	総探委員会	

3 生徒にどのように支援するか								
(1)「人間関係形成力・他者理解力」の育成を目指した教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 不適切なSNSの利用による、人間関係トラブルが多く起こっている。 ネットを利用する機会が増え、フィルターバブルや確証バイアスが働き、多様な情報に触れる機会が極端に少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は3年に一度の芸術鑑賞の実施年であり、古典芸術に触れ、普段接することのない文化を理解する。実施後アンケートで60%を超える肯定的回答を得る。 オープンスクールへの生徒の参加を促進し、中学生との交流を通しより良い人間関係を形成していく。中学生アンケートの肯定的解答が50%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 8/2、10/29にオープンスクールを実施する。 11/18に芸術鑑賞を実施する。 1学期および2学期末の特別時間割に朝読書を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 8月は110人の中学生が参加。10月の申し込みは約110人(全学年対象)。参加人数の減少が顕著。 スクールガイドの作成がスズミ、中学校への広報活動に影響が出た。 3年に1度の芸術鑑賞。3学年が鑑賞できる形になれば… 朝読書により、図書への貸し出しも伸びている。また、生徒が本に触れる機会も増えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本年度芸術鑑賞を11月に実施した。アンケートの結果、93.4%の生徒が「大変満足」。5.8%の生徒が満足と答えた。また、54.8%の生徒が次回も和太鼓演奏を希望しており、今回の和太鼓演奏が大変好評であったことがうかがえる。 	A	総務課
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で学校行事がなくなり人間関係形成力や他者理解力の育成を目指した授業が高く求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けて、グループ学習、ペア学習や言語活動等を行い、人間関係形成力、他者理解力を育成する指導が70%以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員へ対するアンケートが実施できるように準備をする。 集会や教室掲示などで「学習のスタンダード」ができるよう促す。 生徒にアンケートを実施し、その結果をもとに、対策を考え喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間関係形成力」「他者理解力」の育成を目指したICTを使った授業改善を企画できた。試みた結果、教員のICTスキルがさらに上昇し、2つの力を育成したと思われる。 2学期は経験年度別研修者による研究授業を行ってもらう。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けて、グループ学習、ペア学習や言語活動等を行い、人間関係形成力・他者理解力を育成する指導ができた割合は90.4%となった。また、「学習のスタンダード」は教室掲示などで促すことができたためどの項目も肯定的意見が75%を超えていた。 	B	教務課
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会長等の三役と生徒会執行委員が生徒会活動を主体的に行おうと努力している現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性の伸長を意図した学校行事や委員会活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会顧問の助言をなるべく少なくして、執行委員がどのように学校行事や委員会活動を行いたいのか、しっかり話し合いを持ち、PDCA(計画・実行・確認・改善)の考えを基本に、報告、連絡、相談を密にして活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雄心祭では生徒会主体で計画した仮装大会を実施した。生徒会長を中心として連絡・相談・報告を密にして実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の生徒会でやり遂げたことは、雄心祭文化の部の仮装大会、12月13日に行った玉原小学校とのメディア学習会および、防寒着着用規定の緩和である。いずれも生徒が自主的に目標と計画を立てて実施することができた。生徒会のこのような活動を見て、昨年度は1名の募集しかなかった生徒会執行委員に今年度は1、2年生から9名の希望者が出たことも大きな成果である。 	A	生徒指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 従来から2年生で実施しているインターンシップは、コロナ禍の中で昨年度は実施できた。ただ、実施できるかどうか不安定な状況がみられる。 令和4年度からの新教育課程に移行し、1年生から総合的な探究の時間の取り組みが始まる。企業連携、地域連携した取り組みを商業科や機械科と組織的に進めることがこれから求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度もコロナによる影響がなければ、インターンシップを総合的な探究の時間委員会の詳細な実施計画をもとに2年団を中心に実施する。 インターンシップを実施できない場合には、SDG'sなど代替的なテーマを設定し、探究活動を通して企業との連携を模索しながら取り組む。最終的に2年生は、インターンシップ校内発表会の実施、また1年生2年生を含めての、「先輩社員との座談会」を3学期に実施する予定とする。生徒の資質能力を発揮する場として実施し、探究活動のまとめとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間委員会においてインターンシップの企画、運営、実施する。 先輩社員との座談会を企画、実施する。(3学期) 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、総合的な探究の時間委員会においてスケジュールにもつき運営、実施することができた。今後、校内発表会に向けて準備する段階に入った。 玉野市のインターンシップ事業は、玉野市産官学連携地域人材育成推進協議会において全体的な企画・運営についての組織である。この協議会では、新たな取り組みとして1年生から2年生でのインターンシップ実施への橋渡しとなる内容の企画が今年度すすんでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の2年生を対象にしたインターンシップは総合的な探究の時間委員会の運営のもと無事終了することができた。 次年度に向けて1年生対象の合同オンライン企業説明会を3月15日実施に向けて準備が進んでいる。これは次年度のインターンシップ事前の指導として行われるものである。 	B	進路指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 玉野市のゴミの回収基準が変わったが生徒に周知できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 私物のゴミの持ち帰りを徹底し、校内に放置ゴミが出ないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や美化委員と協力してゴミ処理について啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの持ち帰りについては、当初の予想よりできている。校内の放置ゴミについて現在より減らせるようにしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別については、担任や委員会の活動で概ねできるようになった。自動販売機のペットボトル等も指定場所に捨てることでできつつある。来年度も学校で回収できるゴミと回収できないゴミの周知徹底をおこないたい。 	B	保健厚生課
	<ul style="list-style-type: none"> 学年目標の中で、挨拶をする、反応するように呼びかけている。号礼時にはよい挨拶を行ってくれる生徒が多く、廊下ですれ違う際にも元気のよい挨拶ができる生徒の姿も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が、ルーブリックの他者理解力、人間関係形成力がレベル2以上を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の必要性や重要性について理解させる。 SHRや授業などの号礼を徹底し、自発的な挨拶を促すために教師側からも積極的に挨拶を行う。 SHRでは司会を行う日直に全員が協力的、スムーズな運営ができるよう、お互いに配慮するように呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 号礼に関しては、どのクラスでも元気のよい声で挨拶をすることができるようになってきた。声の小さくなったり先言後礼ができなくなったりする場面も見られた。 行事や総合的な探究の時間(玉野を知る。グループワーク)を通じて、クラスで意見を出し合ったり協力し合う雰囲気が出てきた。特に雄心祭のバック作成を行う中でク、ラスメイトのことを知る機会が増えたことや、他の学年とも連携をとる場面もあったことから、人間関係形成能力がついたと感じる生徒が増えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 他者理解力レベル2以上100%、人間関係形成力レベル2以上98.7%となった。年度当初はどちらの項目もレベル2以上は75%前後であった。授業や総合的な探究の時間のペアやグループ学習、行事などを通して、他者をおもいやり、人の意見を聞き入れる力が付いたと感じている生徒が多い。また、他者と関わる中で自己理解力も身についたと感じている生徒もいた。 	B	1年団
	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度末のルーブリック評価は、他者理解力(生徒自己評価3.2 教職員評価1.8)人間関係形成力(生徒自己評価3.2、教職員2.0)であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリックの人間関係形成力、他者理解力の評価レベル2.5以上を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、総合的な探究の時間(インターンシップ)、修学旅行等を通じて異年齢、校外内の多様な年齢層との関わる機会を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間(インターンシップ)の経験は現在報告書の作成中であるが、各生徒にとって異年齢と関わる大きな経験となったと感じている。また学校行事に実際に参加できた今年の活動はクラス内の人間関係のトラブル等も出てきたが、関わることで出てきたであろうにも感じている。修学旅行でもクラス内外、他者との関わり方について考える機会としていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間(インターンシップ)、雄心祭、キッズビジネススタウンたまの、修学旅行と多くの学校行事を経験することができた。人間関係のトラブルも相変わらずあるが、生徒の中にはそれぞれが自己肯定感を持って成長を感じている。人間関係形成力評価レベル3.6、人間関係形成力3.2であった。(1月実施生徒アンケートより) 	B	2年団
	<ul style="list-style-type: none"> 親しい仲間との挨拶や協力をすることはできるが、年齢や性別等を越えた相手との関わり方には課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や学年行事を通して、ルーブリックの人間関係形成力、他者理解力のレベル3を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスや学年・学校行事・進路活動等を通じて他者との関わりの中で、「伝える力」「受け取る力」「まとめる力」「実践する力」を高める場として活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事を終えて多くの人と交流し、人間関係を築いていくことができるようになってきていると感じる。 しかし、学年アンケートを行ったところ2割強の生徒達が礼儀やマナーが身につけていない集団であると認識している。 学年アンケートの結果をフィードバックし、自己評価と他者評価の違いを目に見える形で刺激していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1月に実施した学年アンケートでは、親しい仲間と協力関係を築いたり礼儀やマナーが身についたと自己評価している。しかし、学年集団としては約3%が協力関係を築くことができていない。約17%が礼儀やマナーが身につけていないと回答している。多くの行事やイベントを通して自身の成長を実感している生徒が増えた。 	B	3年団

3 生徒にどのように支援するか								
(1)「人間関係形成力・他者理解力」の育成を目指した教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 個人差はあるが、人間関係形成力、他者理解力の弱い生徒が一定数いて、本人も周囲も困っている場合が散見される。いろいろな原因が考えられるが、言葉の使い方のまずさ、相手の事情へ想像力のなさ等がその原因だと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の使い方、自分の印象が変わることを理解させ、まずは、よりよい表現を知ることを目指す。授業の中でプリントなどを用いて生徒に知らせる。また、文章を読むことで、いろいろな人がいて、いろいろな考え方があることを知る。小説等の文章を読んだ後、登場人物や筆者の気持ちを短文でまとめる課題に全員が取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を読むプリントや課題を作ったり、文章も年間のどこかで、扱う文章の中で、登場人物や筆者の意見を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で教材をまとめさせたり、人物の気持ちを考えさせたりすることを通して、書き言葉の勉強をしているが、なかなか文章を上手く書くことまでには至っていない。ただ、3年生は進学・就職のための準備の過程で理解を深めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各単元で、難しい言葉が出てくる場面では意味を調べたり、最後のまとめには、自分の言葉で感想を書いたり、言葉で表現する時間を作った。(1年) 各単元で、段落ごとに要旨をおさえ、短く要約する練習を繰り返し行った。そのなかで書き言葉の学習を行った。(2年) 各単元で、注意する語句については必ず意味を確認し、その語句を用いて例文を作った。文章を読んだ感想、誰かに贈ることを想定した文章、創作、自己アピールなど、言葉で表現する機会を多く作った。(3年) 	B	国語科
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ下でもあり、授業の中で積極的なグループ活動は実施できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケート(最終)における肯定的評価を70%以上達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民科(公共)、地歴科(世界史A)ともに対面のみこだわらず、Chromebookを活用して意見を共有したり、対話的な授業内容を単元ごとに意識して取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に1年生「公共」では科目の特性話し合いや発表活動を取り入れた授業を行うことができた。知識理解との授業時間配分については再考が必要である。世界史・現代社会ではなかなか取り組めていないが、Chromebookの活用などで振り返りの内容を共有するなどの活動を行っている。できるところから今後も検討していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 公共ではChromebookを活用し、話し合いや共有の活動をつくることができた。世界史、現代社会での学び合いや対話的授業の展開については単元のまとまりで考え実施することもできた。今後もChromebookをツールとして活用していきたい。授業評価は2月予定である。 	B	地歴公民科
	<ul style="list-style-type: none"> 「人間関係形成力・他者理解力」の育成を目指した教育活動にはグループ学習などが考えられ、すでに実践をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、数学科授業4(フォー)を実施することにより、主体的・対話的で深い学びができ、「できた」「解けた」「分かった」と感じるができる。 アンケートを実施して、肯定的回答が60%を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で、次の①～④のうち1つ以上実施することを目指す。(数学科授業4) ①グループ(ペア)ワーク・学び合い、または教え合いをさせる。 ②数式だけではなく、ICT機器の利用または図を使って示す。 ③日常で使われている数学を紹介する。 ④「なぜ」「どうして」の質問を投げかけ、説明させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数の相互関係の分野ではグループ学習を行った。その時にはPCを使ったフラッシュ教材で公式の復習をしたり、ジャムボードを活用してグループの意見の集約に使ったり、教材提示装置を利用して発表させたりした。回数を重ねることが、時間的に厳しいことが分かった。調査ごとで時期を区切って調査ごとに1回を目安に実施したい。反対に、ペアワークは比較的簡単にできることから、プリント教材でのペアワークなど、ますますの頻度で取り組んでいる。 日常で使われている数学を紹介することはなかなか簡単ではない。ただ、数学の魅力を知ってもらいたくて、教科書を離れたトビックスとして紹介することがある(フェルマー素数とは何か→素数発生公式が存在するか→クワットカードの安全が担保されていること、など)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習は1学期に1回くらいの割合で行っている。目標に掲げたグループ学習ではあるが、教え合いをさせることによつて、教える生徒が知識をより深め、自身を持つことが目標の一つである。その目標をグループ学習という形を取る前段階で、すなわち個別学習の過程で、個々の理解を深めることに努めている。 ペアワークは短時間にできることでもあるので、頻繁に行っている。(プリント教材など) 	B	数学科
	<ul style="list-style-type: none"> 実験実習を通して、お互いの協力で操作については実現できた。実験実習において、実験結果から何がわかるか等意見交換を行う機会を設けることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験実習の結果や与えられた資料からどんなことがわかったのか話し合いの中から一定の方向性を見いだせる力を養う。正解・不正解は問わない。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験実習プリントの設問の中にグループで話し合った内容が記入できる項目を設ける。できれば、発表できる時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 塩の結晶の様子や味覚による違いについて、グループで相談させ結論を出させた。塩を商品化するに当たって、「味の良さ」や「健康志向重視」などそれぞれの特徴を認識できたことはとてもよかった。しかし、グループ発表までの実践ができなかったため今後取り組んでいきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 実験実習における重要なことは、「予測」と「考察」である。これを実践する上で班で考えを出し合うことは有意義なので、来年度は機会を増やしていきたい。 	B	理科
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の生徒間での関わりとなり、従来のように密になり活動がしにくい状況下であるが、生徒同士が仲良く活発に活動している。 スポーツに対して上達、楽しむために工夫して活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい中に生徒間でお互いに工夫、意見交換しながら活動し、各種目でゲーム等ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> グループノートの活用をする。 選択授業でのリーダーの育成により、より高いレベルを目指し、コミュニケーションしながら活動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組みがスムーズになる一方で活動を制限しながらというのが難しく感じられる。コミュニケーションが活発になっていいるが、コロナを考えると不安要素も拭えない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ではあるが生徒が工夫しながら活動する姿が見え、状況に応じて活動できている。 	B	保健体育科
	<ul style="list-style-type: none"> 英語で言語活動を行うのは難しい生徒が多い。 コロナの感染状況によりペアワークの実施が難しいが、ペアでの音読活動を実施できた際には多くの生徒が取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスメイトと英語でコミュニケーションを取ろうとする態度が身についている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各Lessonごとにペアで音読練習をする。 英語の簡単なゲームやクイズにペアやグループで協力して取り組ませる。 各Lessonの内容に沿って自己表現を行い、それをもとにペアワークを行う。 生徒の発言からさらに発展的な授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各パートごとにペアで音読練習に取り組むことができた。 単元に関連づけてSDGsを題材に簡単な書く活動を行ったり、問いをClassroomに配信して生徒に解答させたりすることができた。自己表現活動や英語の簡単なゲームなどは今後さらに機会を増やしていきたい。 活発な発言があるクラスでは、生徒の発言を基に単語や海外文化の知識を深めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習やペアワークを通して、クラスメイトと英語でコミュニケーションを取ろうとすることができた。 	B	英語科
	<ul style="list-style-type: none"> 座学においては個人での学びが中心となっている。教室でのグループ活動が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習等の体験的な学習では意欲的に取り組むことができ、さらには周囲のクラスメイトを助けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習内容を具体的にわかりやすく、生徒に伝える。早くできた人が同じグループの生徒に声をかけてお互いに助け合い、学び合う授業展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 被服実習では早くできた人は先に先に進むのではなく、できていない人の作品の作成に協力するなど、お互いに助け合うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 被服実習、調理実習を通じて、お互い協力し、助けあう相互協力、理解力を身につけることができた。この力は社会に出て仕事を進める上で大きな力になり得ると考える。 	A	家庭科
	<ul style="list-style-type: none"> 授業実習において社会人の方々と関わる機会が多くあり、人間関係形成力と他者理解力を育む環境が整っているが、生徒に意識付けをさせることが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業、実習を通して育む人間関係形成力と他者理解力の達成レベルをレベル3以上を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業実習の中で人間関係形成力と他者理解力を育みたい力として意識付けを行い、企業実習の中でそういった場を設け社会人との関わりの中で力を育ませていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業実習や工場見学前に目標を明確に提示し、人間関係形成力と他者理解力を育む場を設けることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 企業実習後の事前指導・事後指導を徹底し、企業実習後のアンケートで人間関係形成力と他者理解力のレベル3を達成できた。 	B	工業科
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、グループ学習・ペアワークなどがなかなか実践できていない。3年生においては課題研究で地域の方々と関わる機会もあったが、限られた範囲での活動となっており、「人間関係形成力」「他者理解力」を十分に育成できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究だけでなく、各科目でもできるだけGROW UPシートを活用し、「人間関係形成力」「他者理解力」の達成レベルの平均値が3.0を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な範囲で、グループ学習やペアワークを取り入れ、意見を考え発表するなどの言語活動を行い、「人間関係形成力」「他者理解力」を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生では各科目で理解の進んだ生徒が他の生徒を教えたり、お互いに教えあうなどの取り組みを通して、他者理解力や人間関係形成力が育ちつつある。2年生においても科目によりグループ学習や教え合いなどを通して育成に取り組んでいる。3年生は総合実習でキッズの取り組み、模擬取引による共同作業や担当教員への報告確認などを通して人間関係形成力の育成を図っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各科目でグループ学習やペアワークを取り入れ、学習するなかで、他者理解やお互いの関わり方も学んでいた。総合実習以外の科目ではGROW UPシートは活用できなかったが、例えば1年生は、本校に入り検定という目標を全員で共有することで、検定前には、質問したり教えたりということを自発的にできるようになり、他者のことを考えた行動や人間関係作りもできるようになってきていると感じた。 	B	商業科	
3 生徒にどのように支援するか								
(2)積極的な生徒指導(いじめ防止推進の取組等)を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係のトラブル、迷惑行為が数件あった。 SNSでのトラブルが発生している。 学校生活アンケートのいじめに関する内容について、担任を中心に事実確認を行い、情報を集約した上で必要に応じて適宜指導をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「思いやりや命の尊さを大切に、いじめは許さない」という意識がある。」の否定的回答が5%以下となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートの実施を、各学期1回行う。必要に応じて、担任・学年団・教育相談室と情報共有し、対応する。 学校生活全般を通して、いじめ防止のための声かけ、働きかけを継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回学校生活アンケートを7月に実施した。「思いやりや命の尊さを大切に、いじめは許さない」という意識がある。」の否定的回答は4.9%であった。第2回学校生活アンケートを11月に実施予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 第2回学校生活アンケートを11月に実施した。「思いやりや命の尊さを大切に、いじめは許さない」という意識がある。」の否定的回答は6.0%(18名)であった。引き続き学校生活全般を通じて、仲間意識を高めるための働きかけをしていきたい。 	B	生徒指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 「個別の指導計画(夢宣言)を活用し生徒指導に役立っている。」の肯定的な意見が65%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的意見を70%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 夢宣言の年間計画に従って記入時期が近づいたら学年団にアナウンスを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的意見が79%だった。学期末には80%を超えるようにしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的意見が84%だった。生徒・保護者の肯定的意見が低いため来年度のに向けて改善したい。 	B	相教室教育